

ODAを活用して 海外事業展開を目指す 中小企業



村上 博信代表

香川県 → ベトナム

(株)村上組

質の高い地盤改良技術の導入で メコンデルタの洪水対策を実現



洪水で流出したメコンデルタ地域の川岸。被害状況を調べる調査団



ベトナム交通運輸省でのミーティング

◀ 試験機器を使った土質調査。MITS工法の適合性を探る

▼ メコンデルタでの土質調査。2カ所の土を採集し、試験に供された



香川県高松市に本社を置く(株)村上組は1951年の設立以来、国や県の公共事業を主体に成長を遂げてきた地方ゼネコンだ。本四架橋や四国横断自動車道など四国のインフラ整備に深く関わり、技術力を背景にその事業推進に貢献してきている。

海外との“接点”を模索し始めたのは国や地方の公共事業が激減していった2008年頃からだ。「もともと地方公共事業で生きてきた会社。このまま香川にとどまっていたは大変なことになる。東京に出ても同じこと。いっそ可能性のある海外に出ようと思った」、こう語るのは常務取締役の村上周作氏だ。海外実績のある取引先などへの相談を重ねる中、対象国として浮上してきたのがベト

ナムであった。

同国のメコンデルタ地域は、毎年のように台風や高潮などの洪水被害に見舞われ、多くの人命や財産が失われるなど被害は拡大している状況だ。運河や水路の護岸、築堤の構築といった防災対策の早期実現は、同国の大きな開発課題の一つであり、軟弱地盤対策や狭隘^{きょうあい}区間での施工に自信を持つ、村上組の技術力が生かせるのではないかと判断した。JICAの中小企業海外展開支援事業の情報を得た同社は、2014年度の支援制度に応募。2回目の挑戦で採択されたのが「メコンデルタ地域における運河・水路護岸築堤の地盤改良技術普及に向けた案件化調査」である。

調査では、提案技術のMITS工法

(小型・中圧噴射機械攪拌工法)がメコンデルタ地域の土質に適合するかという視点から、同地域2カ所の土を採集。現地でデリバリーされているセメント、河川の水を使い、提案工法で実際に地盤改良体のサンプルを作成。日本式の土質調査方法で分析し、品質が確保できるかどうか、その適合性を見極めている。すでに2回にわたる現地調査を実施しており、先方の交通運輸省内陸水路局の技術者らを対象に施工管理手法などの研修事業も実施していく計画だ。前出の村上氏は「ベトナムにはもっともマッチする工法だという自信はある。次は機械を持ち込み、提案工法の施工を実施したい」と語る。

[外部人材参加：(株)オリエンタルコンサルタンツ]